農業後継者育成基金事業

令和５年度農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）事業

事業主体名　鹿児島県立加世田常潤高等学校

１　目的

農業に関する知識や技術を修得させると共に，就農・新商品開発の意識を高め，幅広い農業観や勤労意欲を育むことで，農業関係への進路促進を図る。

２　実施状況

（1）常潤まるごとスタディ

本校食農プロデュース科と生活福祉科の相互の専門的学習に対する理解を深め，学校内の農福連携を図るために実施した。食農プロデュース科は農業に関する意見発表を，生活福祉科は介護技術コンテストを実施した。生徒はもちろん，職員間の相互理解も深まり，学校活性化にも寄与できた。

【図1　常潤まるごとスタディ（意見発表）】

（2）中学生向け農業体験学習の実施

「農業」のプロデュースの一環として，中学生を対象とした農業クイズラリーや食品加工体験を行った。

圃場でのクイズラリーは，野菜・果樹・畜産・食品加工分野からの出題が主であったが，中学生に対して，農業への興味関心を高めることができた。

担当した生徒達も，体験学習の準備や説明を通じて，自身の農業に対する理解と魅力の伝え方を学ぶことができた。

【図2　クイズラリーの様子】

（3）生産物販売

本校アンテナショップや常潤祭における販売実習を行い，農産物や加工品の流通やマーケティングに関して学習した。今年度も，大丸百貨店（東京都）で開催された全国農業高校収穫祭に出店し，都心部のお客様に，本校や鹿児島県の農産物・加工品の魅力をＰＲした。参加した生徒は，学科の販売実習のリーダーとして他の生徒の接客技術や設営技術の向上に尽力している。

生産物には常潤の森ブランドロゴマークのラベルを貼付し，ブランドＰＲも行った。

【図3　全国農業高校収穫祭】

３　今後の課題，取組

コロナ禍も終わったこともあり，他者との交流体験による学びの機会確保に積極的に取り組んだ。今後も時代の流れを読みながら，農業技術の習得や流通経路や消費者動向を見据えた販売手法の学習にも力を入れていきたい。併せて，地域農業の理解を深める機会も確保し，将来の地域産業や農業の担い手育成に努めたい。農場ＤＸ化等を取り入れた，教育活動の工夫も積極的に展開していく必要がある。